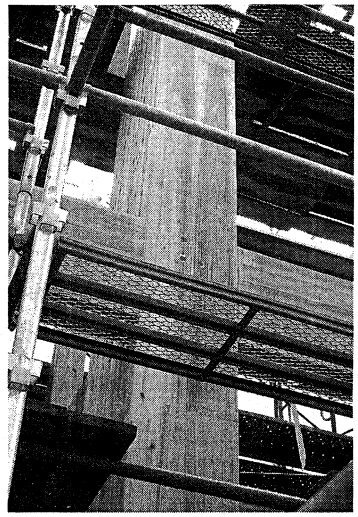


# 九州版

## 県産杉大断面で体育館新設

### 躯体はサミットHR工法

宮崎県三股町



接合部は外部に露出しない

宮崎県北諸県郡の三股町西部地区体育館の新築工事が宮崎県産杉を活用した木造で進められており、このほど現地で構造見学会が開かれた。躯体には、木質2方向ラーメン工法「サミットHR工法」（三井住商建材木構造建築部）が採用された。県産杉の大断面集成材を使い、最大スパン20・25桁を飛ばして大空間を確保している。

同体育館は、同地区一用できるスポーツ施設に地域住民が気軽に利用ができるスポーツ施設に地域住民が気軽に利用ができるスポーツ施設に地域住民が気軽に利用...

の要望も多く出ていたことから新設された。見学会には、設計業者や行政関係者など35人ほどが参加した。体育館は木造1階建て、延べ床面積889・83平方メートル。660平方メートルのアリーナはパドミントンコート4面を取ることができ、38・25平方メートルの可動式ステージも設置する。宮崎県産杉の大断面集成材の製造・加工は山佐木材（鹿児島県肝属郡）が担当し、132・2立方メートルが使われた。主要断面は柱400×700、240×350、400ミリ、梁180×250、700ミリ。内装壁は杉板張りとし、合板で、アリーナ床には杉集成フローリングが使われた。

設計は団一級建築設計事務所、監理は大協設計企画、施工は、はやま・上原特定建設工事共同企業体。電気設備は谷山電設、木造探用の調整役は岩切商事が担当した。建設費用は2億3457万6000円、電気設備工事は1009万1520円で、工期は来年3月1日まで。

2015年(平成27年)11月21日(土)  
日刊木材新聞

三井住商建材木構造

建築部は2013年の上天草市役所松島庁舎・保健センター（熊本県）などをはじめ、九州で様々な用途の建物を手掛けている。同体育館では構造見学会に先立ち10月中旬、地域児童向けの見学会が行われた。木育の一環として、木に触れ梁材に寄せ書きを行った。